



2025 年 5 月 26 日

各 位

会 社 名 鉾研工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 木山 隆二郎
 (東証スタンダード市場・コード番号 6297)
問合せ先 専務取締役経営管理財務本部長 外山 洋
 (TEL. 03-6907-7888)

(訂正)「2025 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、2025 年 5 月 12 日に公表いたしました「2025 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容に一部訂正すべき事項がありましたので、下記の通り訂正いたします。

なお、数値データについては、訂正はありません。

記

1. 訂正の理由

「2025 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の提出後に、記載内容の一部に誤りがあることが判明いたしましたので、これを訂正いたします。

2. 訂正内容

訂正箇所には下線を付して表示しております。

【訂正前】

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

(当期の経営成績)

当連結会計年度（2024年4月1日～2025年3月31日）におけるわが国経済は、物価高の影響により、個人消費の持ち直しには一部に足踏みがみられたものの、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要に支えられ、堅調さを維持しました。一方で、海外景気の下振れや米国の政策動向、金融資本市場の変動、さらにはロシアによるウクライナへの侵攻の長期化等の地政学的リスクなど、世界各地で経済に影響する課題が山積しており、引き続き状況を注視していく必要があります。

当社グループを取り巻く環境につきましては、国内市場は引き続き都市の再開発、全国規模の防災・減災・国土強靱化対策、インフラ老朽化対策、リニア中央新幹線建設などの社会資本整備が急務となっている状況で、建設投資は今後も底堅く推移していくことが見込まれております。一方で、原材料の高騰等による事業への影響があり、厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社グループでは中期経営計画「STEP UP 鉦研ACTIONS 2025」（2021年度～2025年度）に基づいて、持続的売上拡大と収益確保に努めてまいりました。

当連結会計年度の受注高は、ボーリング機器関連における国内外での受注が堅調に推移し、工事施工関連が若干減少しましたが、全体では前期を上回りました。売上高につきましては、ボーリング機器関連、工事施工関連とも堅調に推移し、前期を上回りました。

以上の結果、連結受注高は前期比 8.4%増の10,628百万円、連結売上高は同 11.4%増の10,611百万円となりました。利益面におきましては、原価率の向上により、営業利益は653百万円（前期比16.8%増）、経常利益は581百万円（同21.8%増）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は456百万円（同52.3%増）となりました。

当連結会計年度の業績は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	当連結会計年度(A) 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	前連結会計年度(B) 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	前期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	10,628	9,803	824	8.4%
売上高	10,611	9,529	1,081	11.4%
営業利益	653	559	93	16.8%
経常利益	581	477	104	21.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	456	299	156	52.3%

（百万円未満は切り捨てて表示しております。以下、同じ。）

(セグメントの業績)

①ボーリング機器関連

受注高につきましては、主力製品のロータリーパーカッションドリルに加え、中国市場向製品の受注や個社オーダーの自動掘削機、水中ポンプの受注が伸長しました。

売上高につきましては、個社オーダーの自動掘削機や水中ポンプの売上が伸長したことにより、前期の売上高を上回りました。利益面では、仕入れ部品調達価格の高騰を製品価格に十分に反映することができず原価率が悪化することにより、セグメント利益は減少しました。

以上の結果、当セグメントの連結受注高は前期比 14.1%増の 7,635 百万円、連結売上高は同 5.6%増の 6,855 百万円となりました。利益面は、セグメント利益 278 百万円（前期比 24.0%減）を計上いたしました。

(単位：百万円)

	当連結会計年度(A) 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	前連結会計年度(B) 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	前期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	<u>7,635</u>	6,691	<u>944</u>	<u>14.1%</u>
売上高	6,855	6,490	364	5.6%
セグメント利益	278	367	△88	△24.0%

②工事施工関連

受注高につきましては、温泉工事やアンカー等工事の受注は堅調に推移しましたが、トンネル工事の減少や海外ODA工事の前年受注分の剥落により当セグメント全体では減少いたしました。

売上高につきましては、各種工事は概ね計画通りに進捗し、温泉工事、アンカー等工事、海外ODA工事の施工増加により前年を上回りました。利益面につきましては、工事単価の引き上げ等原価率の改善に努めたことと、売上の増加に伴って向上しました。

以上の結果、当セグメントの連結受注高は前期比 3.8%減の 2,993 百万円、連結売上高は同 23.6%増の 3,755 百万円となりました。利益面につきましては、セグメント利益 380 百万円（前期比 99.6%増）を計上いたしました。

(単位：百万円)

	当連結会計年度(A) 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	前連結会計年度(B) 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	前期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	2,993	3,112	△119	△3.8%
売上高	3,755	3,038	717	23.6%
セグメント利益	380	190	189	99.6%

【訂正後】

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

(当期の経営成績)

当連結会計年度(2024年4月1日～2025年3月31日)におけるわが国経済は、物価高の影響により、個人消費の持ち直しには一部に足踏みがみられたものの、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要に支えられ、堅調さを維持しました。一方で、海外景気の下振れや米国の政策動向、金融資本市場の変動、さらにはロシアによるウクライナへの侵攻の長期化等の地政学的リスクなど、世界各地で経済に影響する課題が山積しており、引き続き状況を注視していく必要があります。

当社グループを取り巻く環境につきましては、国内市場は引き続き都市の再開発、全国規模の防災・減災・国土強靱化対策、インフラ老朽化対策、リニア中央新幹線建設などの社会資本整備が急務となっている状況で、建設投資は今後も底堅く推移していくことが見込まれております。一方で、原材料の高騰等による事業への影響があり、厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社グループでは中期経営計画「STEP UP 鉦研ACTIONS 2025」(2021年度～2025年度)に基づいて、持続的売上拡大と収益確保に努めてまいりました。

当連結会計年度の受注高は、ボーリング機器関連における国内外での受注が堅調に推移し、工事施工関連が若干減少しましたが、全体では前期を上回りました。売上高につきましては、ボーリング機器関連、工事施工関連とも堅調に推移し、前期を上回りました。

以上の結果、連結受注高は前期比 7.6%増の10,543百万円、連結売上高は同 11.4%増の10,611百万円となりました。利益面におきましては、原価率の向上により、営業利益は653百万円(前期比16.8%増)、経常利益は581百万円(同21.8%増)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は456百万円(同52.3%増)となりました。

当連結会計年度の業績は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当連結会計年度(A) 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	前連結会計年度(B) 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	前期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	<u>10,543</u>	9,803	<u>740</u>	<u>7.6%</u>
売上高	10,611	9,529	1,081	11.4%
営業利益	653	559	93	16.8%
経常利益	581	477	104	21.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	456	299	156	52.3%

(百万円未満は切り捨てて表示しております。以下、同じ。)

(セグメントの業績)

①ボーリング機器関連

受注高につきましては、主力製品のロータリーパーカッションドリルに加え、中国市場向製品の受注や個社オーダーの自動掘削機、水中ポンプの受注が伸長しました。

売上高につきましては、個社オーダーの自動掘削機や水中ポンプの売上が伸長したことにより、前期の売上高を上回りました。利益面では、仕入れ部品調達価格の高騰を製品価格に十分に反映することができず原価率が悪化することにより、セグメント利益は減少しました。

以上の結果、当セグメントの連結受注高は前期比 12.8%増の 7,550 百万円、連結売上高は同 5.6%増の 6,855 百万円となりました。利益面は、セグメント利益 278 百万円（前期比 24.0%減）を計上いたしました。

(単位：百万円)

	当連結会計年度(A) 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	前連結会計年度(B) 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	前期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	7,550	6,691	859	12.8%
売上高	6,855	6,490	364	5.6%
セグメント利益	278	367	△88	△24.0%

②工事施工関連

受注高につきましては、温泉工事やアンカー等工事の受注は堅調に推移しましたが、トンネル工事の減少や海外ODA工事の前年受注分の剥落により当セグメント全体では減少いたしました。

売上高につきましては、各種工事は概ね計画通りに進捗し、温泉工事、アンカー等工事、海外ODA工事の施工増加により前年を上回りました。利益面につきましては、工事単価の引き上げ等原価率の改善に努めたことと、売上の増加に伴って向上しました。

以上の結果、当セグメントの連結受注高は前期比 3.8%減の 2,993 百万円、連結売上高は同 23.6%増の 3,755 百万円となりました。利益面につきましては、セグメント利益 380 百万円（前期比 99.6%増）を計上いたしました。

(単位：百万円)

	当連結会計年度(A) 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	前連結会計年度(B) 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	前期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	2,993	3,112	△119	△3.8%
売上高	3,755	3,038	717	23.6%
セグメント利益	380	190	189	99.6%

以 上